

事業名

安心居住の拠点となる『寄合い処』まちづくり事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200 字以上</u> ～ <u>300 字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>目標数値：本事業は H25 年 3 月までに、①モデルとなる『寄合い処』まちづくり事業の実施、②『寄合い処』まちづくりを支えるすみだ絆ファンド（仮称）の立ち上げ、③『寄合い処』まちづくりを推進する組織の立ち上げ、の 3 つの目標を立てた。</p> <p>達成状況：①地元から建物提供の申し出を頂き、防火・耐震化改修を行った。また、地元町会をベースにした準備会を結成し、運営や体制作りについて検討を進め、3 月にオープンした。②資金調達スキームとして寄付と融資の組み合わせモデルを考案し地元金融機関からの融資を実現させ、法人、個人から寄付を広く募った。③寄合い処事業を推進する支援組織の設立を進め、3 月に NPO 法人の認証を得た。</p>	4
2	市民性	<p>本事業における市民の参加人数は以下の通りである。</p> <p>懇話会（4 回）：のべ約 100 名、寄合い準備会（6 回）：のべ約 40 名、見学会：のべ 39 名、お茶の間/出張集いの場：のべ約 60 名。プレ・イベント：70 名、ジョイント・イベント：50 名、オープニング・イベント：300 名。</p> <p>寄合い準備会は町内会女性部メンバー 8 名が参加し、運営面から協議を進めた。3 月の仮オープンからは機動的に現場で動くこと。</p> <p>寄合い処を地域に周知していくため 3 回のイベントを行ったが、公園や公共施設を活用すること掲示版以外に小学校や保育園等へのチラシ配布を行い、多世代の参加が実現した。</p>	5
3	波及効果	<p>今回のモデル事業は、様々な地場の企業、団体が全面的に協力して進めた。寄合い処の改修・整備への協賛を行った企業は、10 団体を超え、その結果、最新の防火・耐震化技術を導入した施設となっただけでなく、企業側の寄付など前向きに獲得できる可能性が広がった。地元町内会のメンバーと丁寧に運営の話し合いを重ねてきた。地元ベースにした運営体制は信頼力を高め、社会福祉協議会や、保育園、介護関連の組織や子育て支援の NPO など、様々な組織との協力関係づくりが始まっている。資金調達については、金融機関のメンバーが参加するコミュニティマネージメントワーキングを実施、その結果、無担保、低利融資が実現するなどの成果を挙げた。</p>	5
4	継続性	<p>寄合い処の運営支援を H25 年度も継続して実施する予定であり、本会議体を継承、発展させる形で NPO 法人化を目指し 3 月末には NPO 法人の認証を取得した。また、区内他地域における新たな寄合い処の</p>	4

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

		<p>整備に向けて調査を実施するため各種助成金の申請を行った。寄合い処が地域で自立した運営を続けていくために、ふじのきさん家自身で収益をあげて回していくための事業の検討を行った。地域の多くの方々が集い、楽しめるようにするため、施設の管理人件費はボランティアベースで行うことで、地域課題解決型の安価なサービスの導入（スペースの貸し出し等）を可能としている。</p>	
5	<p>マルチステークホルダー・プロセス</p>	<p>本事業は以下の様々な特徴を持った団体が協力して具体化への取り組みを進め、事業実現が可能となった。</p> <p>東向二四地区まちづくりを考える会は、地元組織として事業の中身を検討する主体として作業を進めた。耐震協は施設の技術面でのサポートや地元のイベント等の運営を協働で進めた。早稲田大学長谷見研究室と東京大学生産技術研究所加藤孝明研究室に関しては、建物の術指導を行った。(NPO) すみださわやかネット、(NPO) 長寿安心会においては、福祉面からの支援、アドバイスをおこなった。(一財) 都市防災研究所は全体コーディネート、墨田区に関しては全面的な支援を行った。</p>	5

合計点

23

ランク

S